

# 平成19年度 決算審査

## 決算特別委員会委員

◎委員長 ○副委員長

- ◎近藤 隆志 ○米村 賢一  
加藤 繁行 鈴木 雅子  
山崎 泰信 山崎 康憲  
三宅 健司 田中 俊敏  
井手 絹子 柳水 勇  
鈴木 高野 清岡 富雄  
高野 村中 野村 小  
野村 根 野村 小

今定例会に上程された平成19年度の決算認定議案「一般・特別会計」、「病院事業会計」、「水道事業会計」、「岡崎額田地区広域事務組合農業共済事業特別会計」の4件は、19人で構成する決算特別委員会を設置し、付託のうえ審査しました。

## 総括質疑

「平成19年度重点施策の主な事業の決算額は」と質疑があり、「第5次総合計画の柱に沿って、康生地区拠点整備事業に約79億5千万円や児童手当支給事業約29億8千万円、子育て支援の充実に約59億7千万円、動物総合センター建設事業に約4億8千万円、地域交流センター建設に約10億円、小中学校校舎等整備に約10億4千万円、

林業振興事業約1億9千万円、東庁舎駐車場建設事業約15億2千万円などである」と答えた。

次に、「新たに制定された財政健全化に関する法律の狙いは」と質疑があり、「従来の法では、早い段階での財政健全化に関する財政指標の開示や早期の財政再建への是正機能がなく、普通会計のみで再建団体が判断され、財政再建債の発行や国庫補助等の財政支援措置もない。これらの課題を解消するとともに、財政状況が健全な段階から健全化判断比率の公表を義務付け、その比率に応じて自主的に改善可能な健全化手続きと国等の関与を受ける財政再建手続きの2段階の枠組みを設けたことである」と答えた。

## 質疑

### 一般会計

◇歳入  
・市税

「個人市民税の普通徴収の収納率向上対策は」と質疑があり、「未納税者の特性を分析し、一定以上の所得があり、かつ一定金額以下の未納者を対象とした特別催告を行った。これ以外の対象者にも電話催告や訪問を行い、その後も納付連絡のない者には財産調査の上、債権の差し押さえを実施した。また、給与所得者でも普通徴収者に

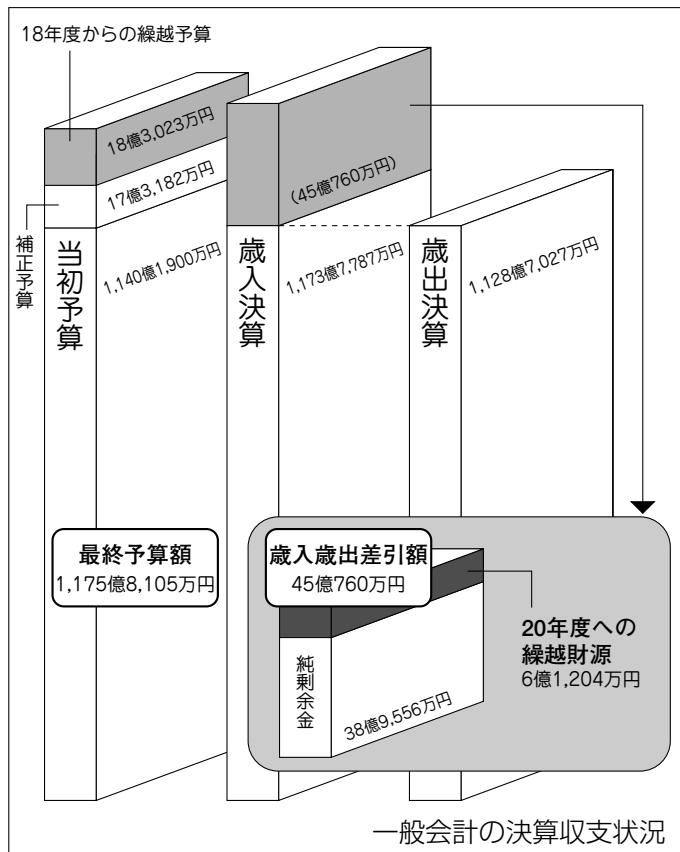
### 19年度一般会計歳入決算額の構成

科目	19年度決算額	構成比	伸び率	18年度決算額
市税	6,792,406	57.9	9.7	6,191,396
その他	2,111,480	18.0	17.8	1,792,963
計(自主財源)	8,903,886	75.9	11.5	7,984,359
地方交付税	97,603	0.8	▲22.6	126,120
国庫支出金	919,691	7.8	26.8	725,252
県支出金	467,118	4.0	21.5	384,457
市債	602,650	5.1	4.9	574,250
その他	746,839	6.4	▲34.5	1,139,551
計(依存財源)	2,833,901	24.1	▲3.9	2,949,629
合計	11,737,787	100.0	7.4	10,933,988

### 19年度一般会計歳出決算額の構成

科目	19年度決算額	構成比	伸び率	18年度決算額
人件費	2,067,896	18.3	2.3	2,021,445
扶助費	1,500,565	13.3	7.0	1,402,679
公債費	709,340	6.3	3.2	687,291
計(義務的経費)	4,277,801	37.9	4.0	4,111,415
投資的経費	2,884,446	25.6	17.7	2,451,144
物件費	1,742,848	15.4	2.3	1,704,405
維持補修費	105,589	0.9	11.6	94,612
その他	2,276,343	20.2	4.0	2,189,390
計	4,124,780	36.5	3.4	3,988,407
合計	11,287,027	100.0	7.0	10,550,966

### 平成19年度決算をどうみるか



は特別徴収の案内チラシを配るとともに、特別徴収事業所の拡大にも取り組んでいる」と答えた。

◇歳出

・総務費

「まちバスの利用状況は。特に今年3月に岡崎げんき館まで延伸されたが、それによってどう変わったかを伺う」と質疑があり、「平成19年7月から運行を開始したまちバスは19年度に6万3183人が利用した。開始当初は月5千から6千人という利用であったが、年明けには7千人になり、更に岡崎げんき館開館に合わせて延伸した結果、利用者は1万人を超えた。同施設の利用と相まって、中心市街地内の拠点間移動手段として認知されつつある」と答えた。

・民生費

「放課後児童育成センターの大規模施設の状況と開所計画について伺う」と質疑があり、「児童育成センターの利用者数は、留守家庭児童数の増加に伴い年々増加し、20年7月には井田と大門の分館を行ったが、21年度以降大規模化が懸念される施設が5館ある。22年度より児童数が71人以上の大規模施設については国庫補助金が交付されなくなることもあり、留守家庭や利用児童数の推移を見ながら、新築または既存施設の利用なども考慮するとともに、分館化を図っていきたい」と答えた。

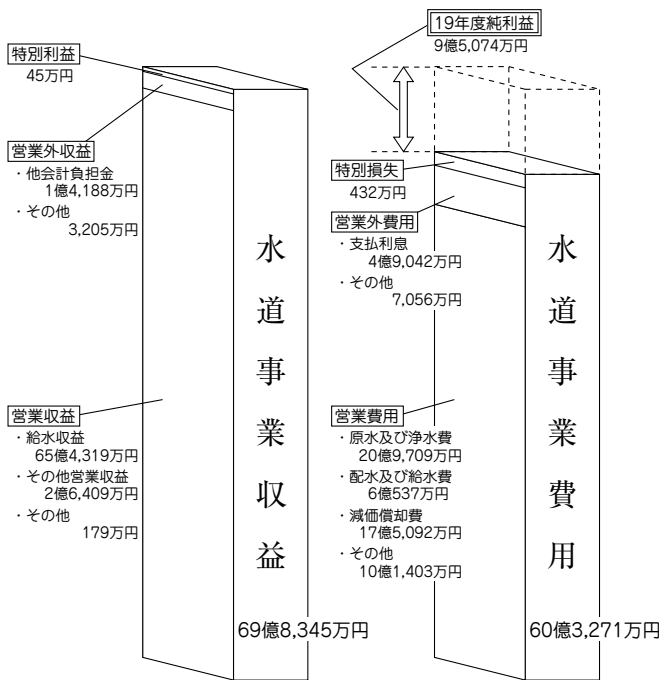
・衛生費

「動物総合センターが完成したが、その機能と、人と動物のより良い関係づくりの効果が市民に実感されているか伺う」と質疑があり、「保健所の動物愛護や公園緑地課の東公園動物園、環境部の野生動物保護及び農務課の畜産動物に関する動物関連窓口を一元化し、ワンストップサービスを推進した。また、人と動物が共生できる快適な生活環境を確保するため、犬・猫とのふれあい事業や犬のしつけ方教室及び犬・猫の新たな家族探し事業などを展開し、多数の来園者に好評を得ている」と答えた。

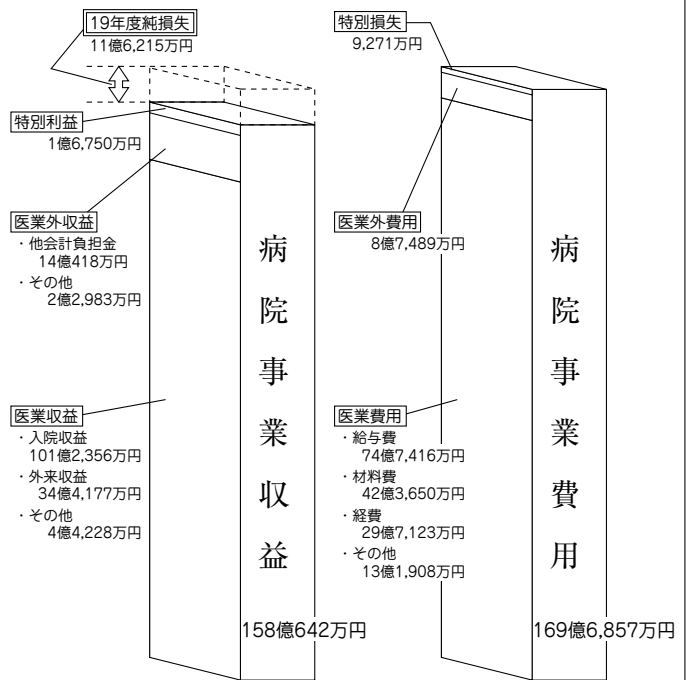
・労働費

「雇用対策協議会の事業内容について伺う」と質疑があり、「高校の進路指導教師を対象とした事業所見学会や求人説明会を開催した他、中高生に望ましい職業観及び就労意識の形成を図るため、キャリアアカウンセラーを学校に派遣してセミナーや面接訓練を実施した。また、大学生を対象とした合同企業説明会の開催、若年者就業対策として専門家による個人相談・職業適性診断・就職支援セミナーを実施した。更に、従業員の定着対策として独身勤労者の男女を対象とした出合いの場の提供や労働者研修会、ニート支援者研修セミナーなども開催した」と答えた。

水道事業会計経営成績



病院事業会計経営成績



(各会計損益計算書より)

・農林業費

「水田農業合理化対策事業について何う」と質疑があり、「この事業は計画的な米の生産調整をするため、地域の中での組織的かつ集団的転作の啓発、調整、推進活動に対して助成するもので、24プロックの代表生産組合に交付する。これにより、平成19年度転作面積は9711ヘクタールで、そのうち668ヘクタールが担い手農家への作業委託となっており、麦・大豆への集団転作が定着してきている」と答えた。



転作(大豆)

・商工費

「くらがり溪谷紅葉まつりの内容とその効果は」と質疑があり、「19年11月10日から12月2日まで紅葉まつりを開催し、ライトアップを11月18日から最終日まで行った。その間の土曜・日曜・祝日に

豚汁、おしるこ、田楽などを提供した。来場者は期間中で約2万4千人、ライトアップ時間中で約4700人あった。多くの観光客の方に来てもらうことができ、夏以外の期間で新しい観光スポットとしての魅力を発信できたと考えている」と答えた。

・土木費

「東岡崎駅交通結節点基本計画の内容を何う」と質疑があり、「駅前広場用地を東側に拡大し、六所神社の西側までの約7600平方メートルの区域として、一般車、バス、タクシィはすべて1階を利用する。一般車の乗降場所を東側に新たに設け、タクシィは現行の西側、駅ビルは中央部分に配置し、その1階部分をバスターミナルとする。駅舎は線路上に広がる橋上駅を考え、改札口及び駅の南北を結ぶ自由通路を2階部分に設置することとなる」と答えた。

・消防費

「中央防災拠点機能の整備内容は」と質疑があり、「総合防災情報システム開発業務として、市内の震度計、雨量計、河川の水位計の観測情報の集約と、消防通信指令システムと統合型GISシステムの連携及びこれらの大画面確認システムの整備を行い、防災啓発施設制作業務では防災展示コーナーの整備を行った。統合型イントラGIS外部連携機能構築業務で

は、総合防災情報システムと統合型GISシステムを連携するソフトの開発を行い、気象情報観測システム雨量計増設業務では現在11カ所の雨量計を10カ所増設し、観測体制を強化した」と答えた。

・教育費

「いのちの教育アクションプラン推進事業の活動状況は」と質疑があり、「子どもが主体となる活動として、多くの学校でいじめ撲滅や人権意識の高揚を目的とする集会が開催された他、高齢者や障害者、異学年や他校、保育園や幼稚園との交流などが行われた。また、家庭及び地域が主体となる活動では、夜間パトロールや子育て、命、生活、食事などをテーマとした教育講演会が開催され、しつけや親子の絆づくりなどへの多くの取り組みが見られた」と答えた。

特別会計

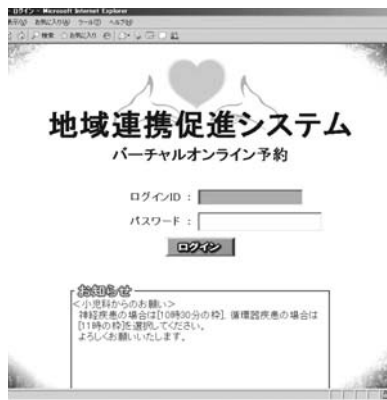
・介護保険特別会計

「包括支援センターのケアプランの総件数と職員一人当たりの担当件数は」と質疑があり、「ケアプランの件数は、10カ所の包括支援センターで19年度1239件あり、この他に居宅介護支援事業所に委託した819件がある。センターには保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員が19年度35名配置されており、一人当たり平均35.4件を担当した」と答えた。

企業会計

◇病院事業会計

「バーチャル予約オンラインシステムの内容は」と質疑があり、「市医師会の各診療所から市民病院の診療予約状況の確認や申し込みを行うシステムである。以前は診療予約を各診療所から電話やファクスで行っていたため、予約日の確定に時間がかかっていたが、このシステムにより診療所にいる段階で予約状況の確認や申し込みができ、その場で患者に伝えられるようになった」と答えた。



バーチャルオンライン予約システム

◇水道事業会計

「水道施設の耐震化完了予定時期と工事費は」と質疑があり、「耐震対策が必要な75構造物のうち55の耐震化が完了した。残りのうち15構造物は施設更新工事に対応する。5構造物については、23年度までに耐震化工事を完了する予定で、工事費は3億8千万円を想定している」と答えた。